

## 港区立麻布小学校「ふれあい月間」におけるいじめ防止の授業報告

港区立麻布小学校

人権教育担当

「ふれあい月間」は、東京都教育委員会が毎年6月・11月・2月に設定している、いじめや不登校の防止・早期発見・早期対応を集中して行う期間です。この期間、麻布小学校では、例月のアンケート調査に加えて、各学年、各クラスでいじめ防止のための授業を行うことにしています。

お子様を、いじめの被害者にも加害者にもさせないための本校の取り組みをご紹介します。

### 第1学年 「ほんとうかな」(道徳)

ペープサートによるお話を聞いたあと、クラスのみんなで登場人物の気持ちを考えました。

「どうして、あんなこと言っちゃったんだろうね」

「ほんとうじゃないことを言われたらかなしいね」

児童たちは、噂を流す側の子の思い、そして、噂を言われた側の子の悲しい気持ちについて、考えたことを発表し合いました。

今回の授業を通して学んだことは、「本当ではないことを言わない」「本当かどうかたしかめる」ということと、「ことばにするときには、友達のことを考えて使う」ということの大切さです。

1年生は、思ったことをすぐ口にしてしまったり、聞いたことをそのまま本当だと思ってしまったりすることがあります。そういった日々の一つ一つの機会を丁寧に取り上げ、今回学んだことを思い出しながら、友達を大切に、言葉を正しく使おうとする態度を育てていきます。

### 第2学年 「だっこしながら」(道徳)

お話の主人公は、お母さんから自分が生まれたときの話を聞き、命について考えます。そして、自分の命はかけがえのないものであり、その命は、家族をはじめ、多くの人に支えられていることに気がきます。

すべての児童に「自分の命ってすごい」と感じてほしい。また同時に、「他の人の命も、同じようにその家族や多くの人に支えられている」ということに気付いてほしい。そのような願いをもって本授業を行いました。

授業後半では、自分の命だけでなく、飼っているペットや妹や弟のこと、さらには友達のことをどのように大切にしているかについて考える時間を持ちました。

「だれにも、その人を大切に思う家族がいる。だから、どの人の命も大切にされなければならないんだね。」そんな気付きをみんなで共有した時間となりました。



### 第3学年 「友達の立場に立ってみよう」(学活)

動画の設定は、体育のリレーで、Aさんが転んでしまってチームが負けたというもの。それに対するBさんの対応が2パターン紹介されました。「Aさんを責める場合」と「Aさんを責めない場合」です。次のようなテーマで児童たちと話し合いました。

「Aさんを責めたBさんは、どんな気持ちだったのだろうか？」

「Aさんを責めなかったBさんは、どんなことを考えていたのだろうか？」

「だれかの失敗でうまくいかなかったときはどうすればいいだろうか？」

話し合いを通して気付いたのは、「私たちは、自分のことだけを考えているときにシンキングエラーを起こしやすい」ということでした。シンキングエラーとは、「負けたのはAさんのせいだ。だからAさんは責められても仕方がない」という間違った考え方です。

今回の授業を通して、大切なことは、①自分のシンキングエラーに気付くこと。そして②シンキングエラーに気付いたら、勇気を出して考えを改めていくことであると学びました。



### 第4学年 「うわさの向こうに人がいる」「あなたならどうする？」(道徳)

うわさやデマは、流した当人の知らないところで人の心を深く傷つけることがある。また、うわさを信じたり広めたりすることで自分も加害者になり得ることがある。活動と話し合いを通して、理解することが本授業のねらいです。

授業では、伝言ゲームによって「人の話が、いかに不正確に伝わるのか」を体験しました。その後、身近に起きそうな「見間違い」や「勘違い」が独り歩きし、全然違う話として伝わること、また、正義感から発する言葉が時に人を傷つけてしまうことなどを、話し合いを通して考えました。

「自分だったらどうする？」という教師の問いかけに、児童たちは自分ごととして真剣に考えました。児童からは、「うわさをそのまま信じないようにしたい」「正しい情報が確認してから行動したい」「おやみに広めないように気を付けたい」など、今後の行動を見直そうとする前向きな発言が聞かれました。

## 第5学年 「友達の噂を聞いたとき、あなたならどう行動する？」(学活)

「噂話をすることによって、相手を傷つけるだけでなく、自分が加害者になる危険性がある。噂が耳に入ってきたときは、『3つの質問』を意識して、慎重に行動しよう」という授業です。



### 質問1 「その話、本当のことだと言える？」

噂話は「誰かから聞いた話」であることがほとんどです。一次情報ではない可能性を疑い、真実かどうかを見極める姿勢が必要です。

### 質問2 「その話を聞いた人はどんな気持ち？」

友人との信頼関係を大切にすなら、悪意のある噂を広めたり、楽しんだりしないはず。その上で、その場の会話を無理に続けず、別の話題にそらすか、その場を離れることを心がけましょう。また、噂を伝えてきた人に「でも、私は直接本人から聞くまでは信じない」と伝える勇気を持ちましょう。

### 質問3 「その話を聞いた人はどんな気持ち？」

相手の立場に立って考えることが大切です。人を傷つけるような言動は改めなければいけません。

来年度は最高学年です。授業で学んだ「3つの質問」を意識することで、自分の学校・教室をより安全で過ごしやすい場にしていこうと話しました。

## 第6学年 「森川くんのうわさ」(道徳)

主人公が事実と全く異なる噂を流されてしまう話です。学級を社会に見立て、公正公平な社会を築くために大切なことについて、教材をもとにして話し合いました。大切なことは分かっていますが、それを実践する力を育てていくことがこの授業のねらいです。

- ① 誰もが情報を発信できる社会において、一方的な見方や情報を鵜呑みにすることは危険。
- ② 自分も相手も過ごしやすい場とするためには、差別や偏見のない公正公平な人間関係の構築に努めることが大切。
- ③ 怒りで誰かを責めなくなってきたときは、自分の感情を見つめるとともに、その弱さに対しても目を向けること。謙虚さを取り戻せるとともに、人を許すこともできる。

話し合いでは、「悪気はなくても噂話をするだけで相手に嫌な思いをさせてしまうことがある」「だからこそ、噂話はせず、気になったことがあれば本人に確かめる」「正しい情報かどうかよく考えて行動する」といった考えが児童間で交わされました。

4月からは、いよいよ中学生です。新しい環境において、さまざまな情報に接することがあると思います。小学校で学んだことを、勇気と自信をもって実践して行ってほしいと願います。

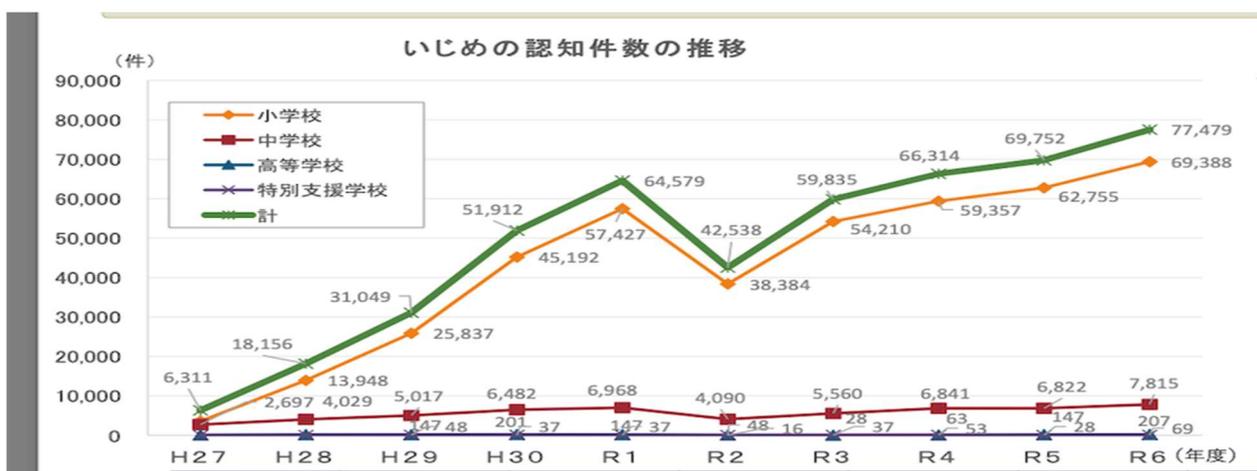
## 終わりに

いじめは、被害者の心に生涯残る傷をつけてしまう重大な犯罪です。現代に生きる誰一人として「自分とは関係ない話」と割り切ることはできません。子供の社会だけでなく、大人の社会でも、SNSなどを通じて熾烈とも言えるような「いじめ」「人権侵害」が溢れています。

子供たちが属す最初の社会である「学校」において、いじめ防止のための具体的な知識・技能・態度を繰り返し教えていくことは、今日の学校教育が果たすべき非常に重要な責務であると考えます。ただし学校だけの指導で問題が解決されるわけではありません。ご家庭や地域と連携し、すべての子供たちに、自他の存在をともに大切にする態度を育むことが大切です。お子様を、決していじめの被害者にも加害者にもさせないために、引き続き連携を図ってまいりましょう。

## 参考資料

### ① 東京都におけるいじめ認知件数の推移



### ② 東京都における「ネットいじめ」の認知件数の推移

年度	小学校	中学校	高等学校
R6	757(1.1%)	575(7.4%)	34(16.4%)
R5	687(1.1%)	578(8.5%)	29(19.7%)
R4	616(1.0%)	585(8.6%)	10(15.9%)
R3	572(1.1%)	509(8.6%)	6(21.4%)

( )内は、いじめ認知件数に占める割合

出典：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査、東京都教育委員会